

# 常任委員会 活動レポート

5つの常任委員会では、議案の審査だけでなく、市民生活に深くかかわる課題について調査研究を行っています。令和7年度 of 取組状況をご紹介します。



## 総合政策委員会

### 未来都市の在り方 ～多文化共生のまちづくり～

本委員会では、長岡市と新潟市を視察し、国際交流センターの運営方法や先進事例などを学びました。現在、本市の国際交流センターは多くのボランティアの協力により運営されています。約3万人の外国にルーツのある方が永住者として本市を選ん でいただいていることを踏まえ、本市における多文化共生に向けた取組の充実を期待します。



長岡市の国際交流センター「地球広場」の取組を調査(10月)

## 子ども文教委員会

### 子どもたちを社会全体で支える 取組の強化と推進

近年、いじめや虐待など、未来ある子どもが犠牲になる事案が急増していることから、「未来を担う子どもの権利について」をテーマに、和歌山県と大阪府の先進事例を視察しました。すべての子どもが、かけがえのない存在として尊重されなければならないことを十分認識し、今後も子どもの権利保障に向け、全力で支援していきます。



和歌山県では「和歌山県子ども計画」などについて調査(10月)

## 市民生活委員会

### 脱炭素社会へ 市民・事業者とともに

本市の温室効果ガス排出量は、家庭部門と業務部門で全体の約65%を占め、市民や事業者の脱炭素への取組が欠かさないことから、市民参加の先進事例である仙台市の「せんだいゼロカーボン市民会議」の調査を行いました。本市においても、買い物や移動手段など、日々の選択によるCO<sub>2</sub>排出削減が進むよう支援していきます。



仙台市では市民に脱炭素行動を促すアプリ活用や対面型イベントなどを調査(11月)

## 保健福祉委員会

### 「福祉的観点から見た 情報コミュニケーション」の研究

手話言語条例を前進させるため、福井県と長野市の先進事例を調査しました。また、オープン委員会を開催し、学識経験者から日本における手話言語コミュニケーションの現状や音声認識アプリの社会への広がりについてお話を伺い、情報保障の課題と可能性を共有し、聴覚障がい者・難聴者が取り残されない社会を市民とともに考えました。



福井県ではICTを活用した障がい者への情報支援や情報保障を調査(11月)

## まちづくり委員会

### 人が集う「にぎわいのあるまちづくり」 に向けて

本委員会では、公園や道路などの様々な都市機能を活用しながら、魅力あふれ、人が集う「にぎわいのあるまちづくり」をテーマに研究を行いました。神戸市と大津市への視察を行い、駅前広場や公園などの公共空間を活用し、居心地が良く、自然と人が集まるまちなかを、地域の方々とともに創出する取組について研究しました。



神戸市では自動芝刈機のドックが設置されている「東遊園地」を視察(10月)